

みる つくる がたる

千葉県立美術館報

VOL. 4 NO. 1

昭和52年5月10日発行
編集・発行人 市原 正夫

〒280

千葉市中央港1丁目10番1号

☎0472-42-8311(代表)



石橋武治「筑波遠望」

観潮台

画家と俳句

美術館での生活も三年が過ぎた。管理運営の多彩な分野で、私は多くの問題に直面し思索したが、最近、本館研究紀要第一号の刊行に参加し、画家と俳句について興味を感じ、余暇活用の追跡を楽しみにしている。

動機は、浅井忠がフランス留学中に、巴会という句会を和田英作・中村不折ら留学生たちと、盛んに開いた現地での記録を見たからである。巴会の概要は紀要に執筆したが、本館所蔵の『寒月・水仙句帳』や、パリ郊外のグレー村で、浅井と和田が交代で記した『愚劣日記』から、具体的にしのべる。

俳句という日本の伝統的文芸と画家との因縁を追究したら、浅井をめぐる一群の画家だけではなく、俳句を実作し歳時記を愛読してきた多くの画家を発見した。いうまでもなく、俳句は本来、群れて楽しむ座の文芸だが、孤独な制作者としての画家には、人の輪は解放の座になり、風土と生活の季節現象を重視するその眼識は、風景との対話を豊かにしたので、多くの画家が愛好したのだろうと感じている。

(高橋在久)

千葉県博物館協会の機関誌「MUSEUMちば」第七号に、「これからの博物館」ということで、利用者の立場から博物館運営について、(1)展示方法を考えて下さい。(2)学芸職員の方とのふれ合いが欲しいのです。(3)施設や資料をフルに開放して下さい。の三点について、かつて県文化課長時代に私見を述べたことがあるがこの基本的な姿勢は、今も変わるところではないが今回は館長として、公立美術館の経営の一端を述べて、御批判と御指導を仰ぎたい。

一、お得意様と潜在的利用者
潜在的利用者という言葉があるか、どうかかわらないかとにかく、美術家や美術愛好家といった方は、美術館の大事なお得意様ではあるが、これらの層だけに、利用がどとまるときは、使わせてやる、見せてやる式の美術館から脱せず、公立美術館としての役割は果せないのではないかと。社会教育でいわれる、不特定多数の方に、「また、美術館にでも行ってみようか。」と気軽に利用される、魅力ある美術館こそ公立として設置された本意であろう。

公立美術館は、単なる作品

鑑賞の場だけではなく、鑑賞以前の美術館存在意義の理解から、利用の生活化まで、幅広く、生涯教育に位置づけられた美術教育の機関であると思う。

そのためには、学校教育・社会教育関係機関等と組織的な連絡をとって、これらの団体等を計画的に受入れて、美術館と美術について、新しい情報とよい印象をもつていただき、そこから新しいお得意をふやしていくことが公

私の公立美術館論

館長 市原 正夫

立美術館の大切な普及事業の方法ではなからうか。

作品の展示方法や解説について、いろいろ議論のあるところであるが、個人の主体的欲求というより、団体として引卒されてくる利用者等にはそれなりの教育的配慮に基づく展示や説明がなされてこそ、関心の高まりが、みられると思う。

作品の質的深さからだけでなく作家の経歴・人柄やその背景的な資料から、その作家

や作品が好きになっても、よいのでないか。

二、既成品と手づくり

昨年は、ゴッホ展・シヤガール展・ロダン展等が東京で開かれ、さらに地方の国・公立美術館等に巡回されて、大きな反響を呼んでいる。

公立美術館の展覧会企画として、このような世界的、また、歴史的なものを受入れて県民の方に、身近な場所ですくく鑑賞の機会を与えることは意味のあることではあるが

しい一頁を築くことになるのではないだろうか。

三、出合いと評価

これまでの美術館は作品と利用者だけの出合いの場所であって、その場を構成し、機会をつくるのが、美術館の職員であった。

出合いの一方の作品の収集・保管・展示、またそのための調査研究には学芸職員の本命として、努力を傾けているところであるが、今一方の出合いの相手である、利用者の

公立美術館の真の企画展は何かと問いたい。

自らの調査・研究に基づいて地元の作家とその作品を発掘し、その資料を収集しこれを展示して、郷土の歴史にねざした、地方色豊かな活動を行うことは、公立美術館の今一つの役割ではないか。

その展覧は、前記の展覧会のような華やかさ、盛り上りは少ないが、郷土の作家の顕彰と埋もれた物故作家の作品が、その地方の美術史に新ら

研究には、比較的無関心なところが見られる。

作品の解説や広報資料なども、難解な言葉で、得意然として知識を一方的に伝達しているのでは、出合いは成功しない。利用者の意識や反応をみながら、対応していく姿勢が大切である。

また、この世界で感じることは、運営や事業に対する評価があまりいことである。行政事務は住民や議会等が敏感に反応し、監視し、意見が述べ

られ、学校教育は、子どもや父母が教師の活動に目をひからせ、また、教師自身も、指導が目標に対し、どの程度到達したかを絶えず評価・反省を行っている。

この点、美術館事業は住民の生活のギリギリのところにないたためか、一般に極めて大様に館の運営について、積極的に意見を述べ込む人も少ない。ひとつの事業の成果を参加者数という量的評価に加えて運営全般についての評価・反省が真剣になされねば、私どもの仕事は住民から浮きあがるのではないかと。「自己満足」「唯我独尊」の姿勢は地域住民のためにある公立美術館にはもつとも戒めるべきことである。

出合いの機能は、さらに復合化して、利用者同志の出合い、作家や学芸員との出合い、さらに制作活動との出合い、美術図書・雑誌との出合いと多彩な場が構成されてこそ、日常の生活に密着し、余暇の増大、レクリエーション活動の多様化の今日的な役割が期待されるのではないかと。

公立美術館の台頭は、国・私立とは異なつた今一面の役割が期待され要求されてきている。

美術普及室 の開設



本館では広く県民に美の広場を提供してきましたが、さらに美の生活化を目ざして直接触れ合いのできる場を四月十日に美術普及室と名付けオープンしました。

館の正面入口から最も近い第六室を改造し、図書・展示・談話・集会・情報コーナーに区分し、常時館員が相談に応ずるようサービスに努めています。

美術の専門研究から展覧会等の催物まで、美術のことならなんでも自由に話し合いと

学習ができるよう心掛けています。

各コーナーの役割りは次のようになっています。

○図書コーナー 世界の美術全集や辞書など美術の基本図書や雑誌・新聞等美術知識を学べる図書を備えて、自由に閲覧することが出来ます。

○展示コーナー 美術作品以外の参考資料を展示してあります。五月はわが国洋画界の先駆をなした浅井忠関係の資料が中心となっています。

○談話コーナー 利用者がお互いに自由に話し合い、また美術相談に応ずる場で、ソファアを置き見学者の休息もできます。

○集会コーナー 友の会や団体見学者等に利用いただくため、机・腰掛を置き、オリエンテーションや小規模な会合に使えます。

○情報コーナー 壁面を利用して、各地の展覧会等の催物のポスターや、情報の収

集・整理をして、質問に応じたり、美術団体等との連絡を密にする場となっています。

美術館の目標である「みる・かたる・つくる」を実現させるため、第三期工事で美術普及棟が完成するまでの期間とありあえず業務を開始しました。

四月十日の初日からすでに一ヵ月たちましたが、多くの方々が利用され、お母さんが美術全集を広げて、お子さんに教えている姿・催物の期日を手帳に書きこむ方・昼食時の休憩を利用して雑誌に目を通す事務服の娘さんなど、美術普及室の必要性を実感として捉えることが出来ます。皆さんのご意見もと入れながら、愛され喜ばれる室に育てていきたいと思えます。

なお企画展・県芸術祭の間は会場の都合で縮小しますが運営を続けることになっています。どうぞ自分達の部屋として活用し、よりよい室にするよう、ご利用をお待ちしています。

《美の根》 私のデザイン

二口志保子
(染織家)

どんな小さな作品でも先づ柄のデザイン是によって作品の善悪はきまつてしま

う。

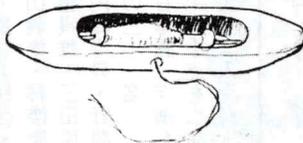
私の様に主婦業が第一で毎日雑用く〜と追まわされてる私、本当に小さな世界を往復しているのにすぎないのですが、日常の身近な生活からの思いつきが多く、切り落す野菜の切ばし、

散らばったごみ、道路のコンクリートのひび、割れ目にも素晴らしいヒントを見出させてくれます。

織物の今一つの生命は糸の染色で原色と織上った色調との相違が解るまでには相当な経験が必要となるのです。

あとは時間との根くらべ。奥の深い機織りだからこそ悩みがあり、苦心があり、楽しみがあります。

細心の努力の末、作品を仕上げた時の喜びは又格別です。しかし中々満足す



杼 (ひ)

べき作品は出来ません。さてこの何十年苦しみ悲しみ楽しみを共にして来た機織は私にとって一つの宗教にも似た存在の様でございます。



展覧会案内

特別展

—自然との対話—

海と湖沼展

昭和五十二年度の特別企画として、特別展「—自然との対話—海と湖沼展」を七月一日(金)から七月三十一日(日)まで開催します。

本館はかつて第一回の特別展として「描かれた房総」と題して房総の自然と風土を描いた作品を展覧し、写生地としての房総と近代美術のかかわりについて明らかにしてきました。

今回の特別展においては、古くより日本人に愛好されてきた日本の海と湖沼を題材とした作品のうちから、近代以降の造形美の一端を展覧に供します。四季おりおりの変化に富んだ自然に恵まれた、わが国の風土は、日本人の自然観・世界観を形成する上で大きな比重を占めています。こうした風土と作家の個性とのかわりを日本画・洋画の作

品に求め対象を海・湖沼・河川など水をモチーフとして托された作家の情念を追いながら、そのさまざまな表現の中から、自然と人間との交換する姿を理解していただければと念じ開催する次第です。

出品予定の作家としては、日本画家—横山大観・小川芋銭・吉田登穀・川端龍子・田岡春径・奥村土牛・富取風堂・加藤栄三・東山魁夷・時田直善・若木山・小野具定・渡辺学の十三名。
洋画家—浅井忠・原田直次郎

石橋武治「雨の海」



・黒田清輝・久米桂一郎・藤島武二・和田英作・石川寅治・山本森之助・青木繁・石井柏亭・金山平三・辻永・斉藤与里・黒田重太郎・中村彝・安井曾太郎・小林和作・牧野虎雄・大久保作次郎・石橋武治・長谷川利行・曾宮一念・青山義雄・林俊衛・前田寛治・椿貞雄・三田康・牛島憲之・円城寺昇・野間仁根・小堀進の三十一名。

日本画・洋画を合せて四十五~五十点を出品予定しています。(入場料—有料)

□講演会□

特別展「—自然との対話—海と湖沼展」の開催に際して七月十六日(土)午後二時から本館で美術講演会を開きます。講師は日本画家の渡辺学氏で、演題は「なぜ漁民を描くか」です。

氏は現在、創画会会員であり、また東京造形大学講師として多彩な活動をされています。

この講演会では、氏の制作過程を中心に諸々の問題に触れながらスライドを用い行うものです。ご参加をお待ちしております。

常設展

房総の美術家

本年度も三期にわけて開催



します。
第一期は、前年度まで特別展・企画展等ですでに紹介してきた作家を中心に「房総の美術家」というテーマで、

浅井忠・都島英喜・原勝郎・石橋武治・椿貞雄・浜口陽三・津田信夫・香取秀真・鱸松塘・若木山の十人を取り上げ房総美術の動向の一端を示そうとするものです。

これらの人々は、浅井・浜口のように房総出身で、中央の美術界又は国際舞台で活躍した人々であり、あるいはこの地に住んで、作家活動と房総の美術界の育成に尽した人々であります。

美術館夏季大学

今年の夏から初めての試みとして、美術館友の会の後援により「美術館夏季大学」を開催します。

二日間のまとまった時間で美術の歴史的な流れ、また、さまざまなに変化する現代美術などについての理解をより深めていただけることと思います。

第一回目として「絵画・彫塑の鑑賞」をテーマとし

て次のとおり開講します。

主催 県立美術館

後援 県立美術館友の会

期日 8月5日(金)~6日(土)

時間 午前9時30分~午後3時30分

会場 県立美術館美術普及室

募集人員 60名(定員を超えた場合は抽選)

会費 無料

申し込み 往復葉書で美術館普及広報班又は友の会事務局まで。

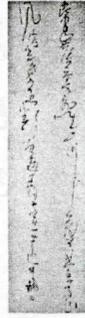
の会事務局まで。

新収蔵作品紹介
52年12月
53年3月

購入

浅見錦龍作

「古泉千樞の歌」



渡辺学作 「川口」



二口志保子作
「絨織訪問着」



香取秀真作

「鳳凰文様花瓶」 「笑獅子
香炉」

「鳳凰文様花瓶」



篠崎輝夫作

「絵馬による」



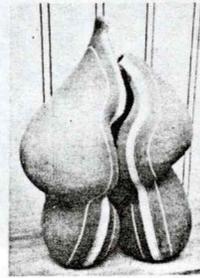
石橋武治作

「筑波遠望」

(表紙写真)

土肥満作

「向いあう単体」



鳩川誠一作

「星祭」



藤野天光作

「ああ青春」



寄贈

左記資料をご寄贈いただきました。厚く御礼申し上げます。

香取住江氏より

香取秀真作 「筋入花瓶」

「六角火鉢」 「獅子原型」・歌

碑原稿・秀真印譜・秀真調査

ノート十九冊、香取秀真爱蔵

品 「古陶器花瓶」 「古九谷琵琶文様小皿」 「乾漆飾皿」

「青磁書院硯」 「魚藻文小鉢」

「鹿文青花小鉢」 「唐三彩御

銚子」、香取秀真遺品「裝飾

付杖」「懐中時計」「旅行時

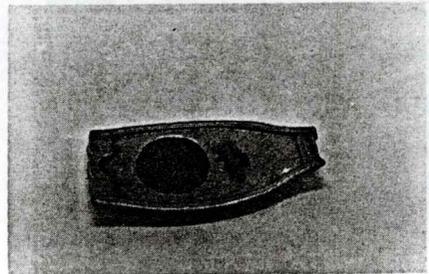
計」「軸装用金具」

「六角火鉢」



「六角火鉢」

「青磁書院硯」



「古九谷琵琶文様小皿」



川

鳩誠一氏より

「関谷風景」「静物」「雪の庭」「かんなんどうの子供たち」「大同石仏」「静物」「長屋門」「静物」「おしどり」「あもりのあんず」「かもめ」「女」「飯坂の雪」「花」「女たち」「ひまわり」「東北風景」「桃花風景」「人」「田園」「野の花」「親と児」「花」「首マンダラ」「ボサツ」「ライラックと蝶」「ヴェニス風景」「サンマルコのカフェー」「野の花」「花」「花火」「男A」「花B」「荒川風景」「庭の彫像」「女と鳥」「キャバレーの女」「裸女と顔」「赤い顔」「バレエ」「裸女と仏陀」「ささやき」「美女と野獣」「祭」「ノエル」「顔」「愛」



「愛」



「女たち」

溝口七生氏より

「高原の樹々」



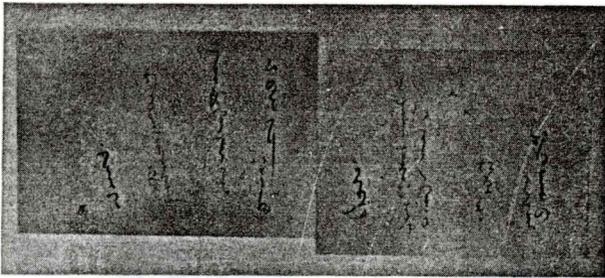
浅見喜舟氏より

「檀櫛」



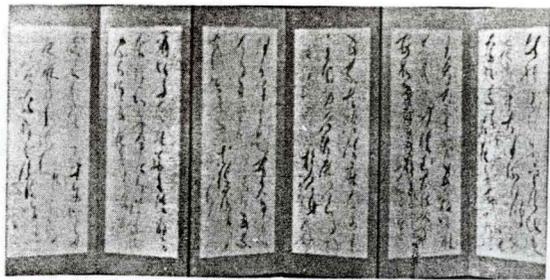
大石隆子氏より

「待君」



小暮青風氏より

「万葉集東歌」



杉原元人氏より

「海花」



石橋昭氏より

石橋武治作「火口」「並木の道」「白鷺のいる風景」「早春」「水辺」「泥かぶら」「少年」「砂山」「水辺」「裸婦」「水温む」「夜の富士」「水郷」「細道」

「泥かぶら」



「水郷」



お知らせ

52年度「実技講座」

「みる・かたる・つくる」美の広場をめざしている本館は、昨年に引き続き、本年も友の会と共催で実技講座を計画しております。

この講座においては、風景画、人物画、静物画などの基本的な描き方や技法などを初歩から学べるようにプログラムを組む予定です。

日程、講座名などは次のとおりです。

第1回「野外写生」 5/2

2回「人体写生」 5/23

3回「静物写生」 5/30

なお、募集人数、その他については、学芸課普及広報班（電話〇四七二一四二一八三一、内線二九）までお問い合わせください。

「美術を語る会」へどうぞ

「かたる」活動をさらに充実するためにこの会を計画しました。美術館友の会の後援で、美術一般に関する問題をとりあげ、語り合うことでより幅広く深い理解が得られるように配慮しました。

テーマとしては、浅井忠関係について、また本館で開催中の各展覧会にあわせて、興味深い問題などをとり上げます。

日時は次のとおりです。

5月14日、7月9日、9月10日、11月12日、53年1月14日、3月11日。いずれも土曜日の午後2時より開催の予定です。参加は自由です。

この会は「かたる」楽しさを一層増してくれるでしょう。詳細については学芸課普及広報班にお問い合わせ下さい。

紀要第一号を刊行



千葉県立美術館紀要第一号を刊行しました。昭和四十九年開館以来、房総にかわりのある美術家を中心に事業を進めてきましたが、昨年本館で開催された特別展「浅井忠とその師弟展」を記念して浅井忠に焦点を合せ、十名の館員が研究の成果を執筆しました。一冊五〇〇円（送料二二〇円）、美術普及室でお求め下さい。

トピックス

藤野天光作「ああ青春」建立

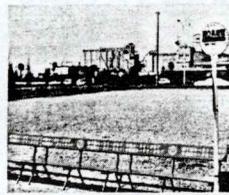
3月12日、野外展示作品第一号として、昭和49年、71歳で亡くなった故藤野天光氏の「ああ青春」が玄関前の芝生に建立されました。題字は天光氏の師、北村西望氏の筆です。どうぞ御鑑賞ください。



「ああ青春」像の除幕式

ロータリークラブからベンチの寄贈

3月8日、ロータリークラブ（千葉、千葉南、新千葉、千葉西）よりベンチ10脚が寄贈されました。美術館の外構については、順次整備の予定ですが、このベンチ寄贈により、バス利用の皆様により、厚く御礼申し上げます。



バス停に置かれたベンチ

職員異動

昭和52年4月1日付で次の職員の異動がありました。

□転出者

- 渡辺三郎（教育庁指導課）
- 石井則孝（房総風土記の丘）
- 佐藤 清（佐原市立香取小学校）
- 久保木良（教育庁文化課）
- 大堀幸則（県管財課）

□転入者

- 坂本雅生（庶務課長）
- 大木 衛（学芸課長）
- 中村 哲（学芸課学芸員）
- 宮内忠昭（主任主事）
- 矢部喜信（技師）
- 篠原恒雄（運転手）

転出者の労をねぎらうとともに、新しい職員の活躍を期待します。

日誌抄

（52年1月～4月）

- 1月 常設展第3期、第1回千葉県秀作美術展始まる
- 5月 美術界新春パーティー開かれる（ちば共済会館）
- 8月 美術館評価委員会開催
- 18月 モスクワよりマルクス・レーニン研究所長来館
- 20月 美術館協議会開催
- 2月 千葉テレビ、収蔵作品展を取材
- 6月 千葉日報「公立美術館めぐり」に本館が紹介される
- 3月 15日 ロータリークラブよりベンチの寄贈
- 8月 12日 藤野天光作「ああ青春」像が玄関わきに完成、除幕式行われる
- 25日 千葉県立美術館紀要第一号発行
- 29日 館長、永年勤続で顕彰される
- 4月 10日 常設「房総の美術家」始まる。美術普及室が開設される
- 21日 友の会総会

昭和52年度 本館主催展

*開館時間 午前9時から午後4時30分まで
休館日 月曜日(ただし祝日のときは開館)

展覧会名	会期	備考
常設展 第1期 第2期 第3期	4月10日～6月26日 8月5日～10月20日 12月1日～12月25日 53年1月5日～2月19日	無料
特別展 海と湖沼展	7月1日～7月31日	大人200円(150円) 大・高生150円(100円) 中・小生100円(50円) ()内は団体20名以上
世界の子ども絵展	7月26日～8月28日	無料
房総の美術家シリーズ6. 現代工芸六人展	9月10日～10月16日	無料
千葉県移動美術館	11月3日～11月13日 12月4日～12月18日	会場 県立上総博物館 県立安房博物館
第29回県展	11月2日～11月13日	無料
房総の美術家シリーズ7. 菅谷元三郎二 門城寺昇二人展	12月20日～53年1月25日	無料
第11回現代美術選抜展	1月29日～2月17日	無料
特別展 一残照から唐招提寺障壁画まで一 東山魁夷展	3月4日～3月31日	大人300円(200円) 大・高生200円(100円) 中・小生100円(50円) ()内は団体20名以上

昭和52年度 団体展 (5月～9月)

展覧会名	会期	主催
墨の県展	5月17日～5月29日	石井成児(代表)
第24回千葉県書道協会展	5月31日～6月5日	千葉県書道協会
独立千葉在住者展	6月14日～6月26日	古井 洵(代表)
第5回書壇秀抜展	6月28日～7月3日	千葉日报社
第1回千葉美術シンポジウム&「青枢展」	7月12日～7月24日	青枢会
第3回児童合同美術展	8月2日～8月7日	児童造形美術家協会
第2回子供と教師の作品展	8月16日～8月21日	千葉県立教員養成所OB会
「明るく楽しい家庭づくり」 ポスター・標語展	8月16日～8月21日	千葉県青少年協会
いてふ会彫刻展	8月23日～8月28日	いてふ会
千葉市教職員美術展	8月23日～9月4日	千葉市教育委員会
書道芸術院南関東展	9月6日～9月11日	書道芸術院
問われる表現展	9月13日～9月18日	国藤洋平(代表)
千葉新象展	9月20日～9月25日	浅井 昭(代表)
文化書道千葉県連合会第4回書道展	9月20日～9月25日	文化書道千葉県連合会
モダンアート協会千葉県在住作家展	9月20日～10月2日	モダンアート協会
第24回千葉県勤労者美術展	9月25日～10月2日	千葉県商工労働部労政課
ファンシー洋画展	9月27日～10月2日	佐久間雅子(代表)
千葉市水墨画同好会連合会展	9月27日～10月2日	林 利郎(代表)